

◦ 5月26日 (火) 掲載

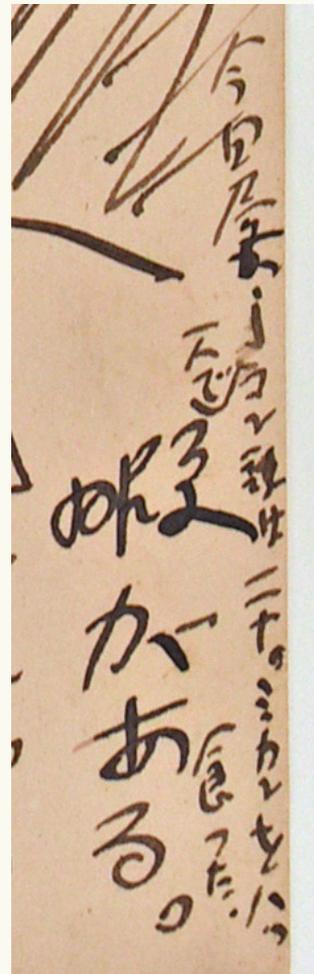
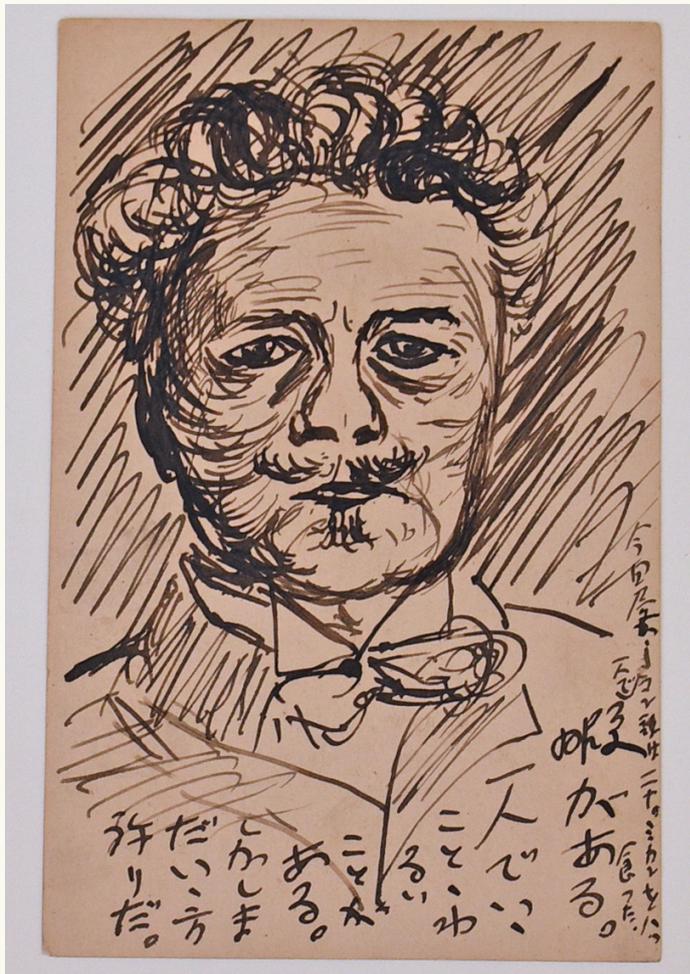
【#おうち時間で実篤を知ろう 甘いもの篇】

実篤を身近に感じてほしいよシリーズ、今週は「甘いもの」にまつわるエピソードを紹介します。食べ物に対しては無頓着な実篤ですが、甘いものは別。お菓子や果物が大好きでした。

【#おうち時間で実篤を知ろう 79】

実篤の甘いもの好きは若い頃からでした。25歳の実篤が友人の志賀直哉にあてた手紙には「今日昼から一人でマン頭は二十。ミカンを八つ食った」と書かれています。

饅頭(まんじゅう)を20個、蜜柑(みかん)を8個とは……。話を盛っているのではないかと思ってしまう。わざわざ「一人で」と書き足しており、なんだか得意げな様子を感じられます。



〈資料情報〉

武者小路実篤より志賀直哉あて  
明治44(1911)年2月22日



◦ 5月27日 (水) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 80】

妻・安子の旧姓は、飯河 (いごう)。実篤は「飯河安子」をママカワアンコと呼び、大福を思い浮かべました。餡子 (あんこ) が好きで自分のあだ名が「おはぎ」だったことから、縁があると思ったといえます。

安子と出会ったとき、実篤は 36 歳。些細なことにも自分と好きな人との繋がりを見出して喜ぶ少年のような心は、いくつになっても変わりませんでした。歳を取っても、安子の様々な表情を捉えた素描をスケッチブックにたくさん描きました。



〈資料情報〉

武者小路実篤 安子夫人スケッチ

紙・鉛筆



◦ 5月28日 (木) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 81】

実篤は果物が大好きで、自分で皮をむいて食べていました。特に好きだったのは、柿。「味は天下一品」「見ても実に美しい」「柿以上甘(うま)いものはないように僕には思える」と大絶賛しています。

画のモチーフにする野菜や果物が傷んでも、描くことを優先した実篤ですが、柿を描くときだけは傷む前に食べてしまったそう。油彩画はじっくり時間をかけて取り組むので、食べたい気持ちを抑えながら描いていたのでしょうか。



〈資料情報〉

武者小路実篤「柿」

1930年頃 キャンバス・油彩



◦ 5月29日 (金) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 82】

実篤は蜜柑(みかん)も大好き。安子夫人が家族の日常を描いた絵を見ると、実篤と娘が囲むこたつの上に大量の蜜柑が。実篤いわく、「柿とちがって汁だけをたべるのだから、沢山たべられる」とのこと。



〈資料情報〉

武者小路安子 実篤と辰子

1942年頃 紙本墨画

蜜柑を食べて「ア、コミカンデ ヨミガエッタ」という娘の言葉に、すかさず「ヨミガエッタラ オマエハ イッタイ ナンニナルンダイ」と聞く実篤。どんなときでも子どもをからかうのが大好きでした。



◦ 5月30日 (土) 掲載

---

【#おうち時間で実篤を知ろう 83】

晩年、体調を崩して寝ていた時、ふと「シロイシルが飲みたい」と言った実篤。  
牛乳か甘酒かと家族が困惑するなか、「そこいらへんにあるのだ」と難解なヒントを出します。  
辿りついた答えは、カルピスでした。

実篤は身近なものの商品名などはあまり覚えていなかったようです。  
古今東西の芸術家の名前はよく覚えているのにと、家族は不思議がりました。



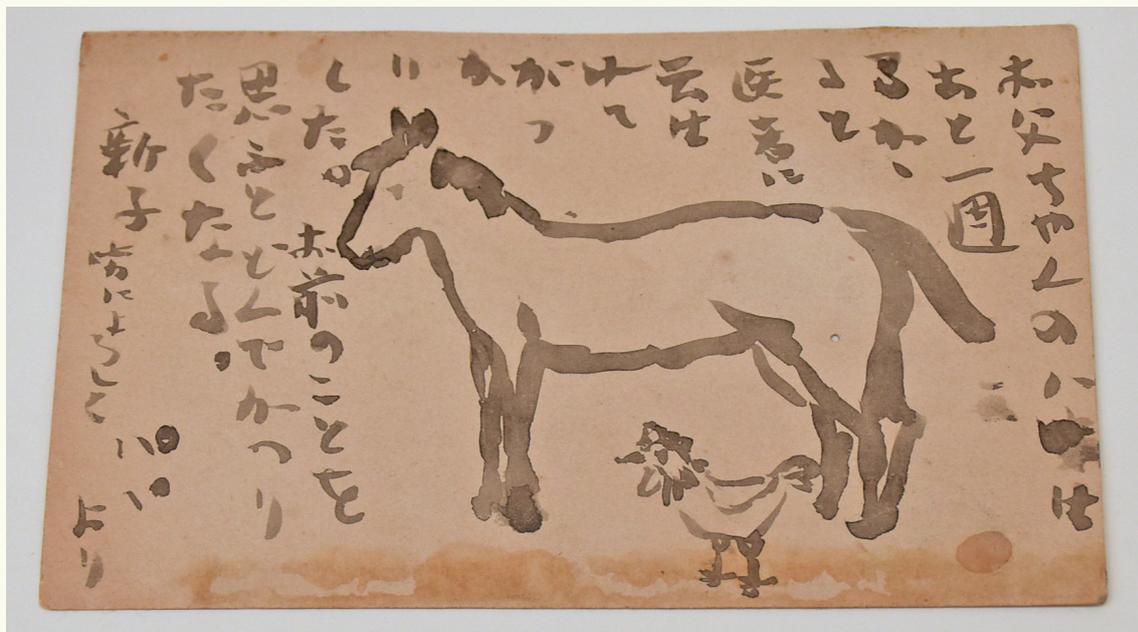
◦ 5月31日 (日) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 84】

甘い物好きがたたったのか、実篤はよく虫歯に悩まされました。

この葉書は、幼い娘にあてたもの。

馬と鶏の絵と一緒に「お父ちゃんのはあと一週間かかると医者には云はれてがっかりした」と書いています。



〈資料情報〉

武者小路実篤より武者小路新子あて書簡

大正14(1925)年4月20日消印

